



© Miwa Yanagi 2009

第53回ヴェネチア・ビエンナーレ

美術のオリンピックともいわれ、歴史あるヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展で日本館の展示を主催。作家やなぎみわの迫力あるインスタレーションが展開される日本館に、会期中約23万7千人が来場した。

50万人

「Performing Arts Network Japan」

日本の舞台芸術情報を海外に発信する上記ウェブサイトへの年間訪問者数が50万人を突破し、平均1,300人/日がアクセス。2009年度に掲載されたインタビューは茂山千之丞、藤本隆行、蜷川幸雄、飴屋法水、三浦基、岡田利規など。

27万人

世界各地で日本映画の上映をサポート

成瀬巳喜男監督『乱れ雲』などの古典から荻上直子監督『めがね』などの近作まで、世界52カ国で主催した映画祭の来場者は合計約13万人。助成した映画祭の来場者数を合わせると、世界中で27万人以上が日本映画の世界に触れた。

5万人

「みんなの教材サイト」登録者5万人

日本語教師向けに教材用素材と教材制作のノウハウを提供する「みんなの教材サイト」。2002年の公開から7年目を迎え、登録者数が5万人を突破。2006年の調査では海外で日本語を教えている教師は約4万5千人。世界の日本語教師にとって欠かせない情報源となっている。

1回→2回

2009年度から年2回の受験が可能に

日本語を母語としない人たちの日本語能力を測定し、認定する日本語能力試験。1984年の初回以来、毎年12月、年1回の実施であったこの試験が、国内外からの強い要請に応え、2009年度より7月と12月の年2回実施に。受験者数は過去最高の77万人に上った。



ロシアで初の本格的な文楽公演を実施

日本の三大古典芸能のひとつ、文楽が「チェーホフ国際演劇祭2009」で上演され、ロシアで初の本格的な文楽公演が実現した。演目は「曾根崎心中」（全8回上演）。映画や翻訳された戯曲を通して文楽はロシアではよく知られており、実際の上演が待ち望まれていた。



日本語国際センター設立20周年

日本語教育の専門施設である日本語国際センターは、2009年で設立20周年を迎えた。全米日本語教師会連合のシュミット事務局長が記念講演を行い、記念式典には、かつて日本語国際センターで研修を受け、今では駐日大使となったOBも駆けつけた。

4,500人

2009年度は218名の研究者が来日

海外で日本の研究を行う専門家が対象となる日本研究フェローシップ。国際交流基金は設立以来、日本での研究や調査、交流活動を支援しており、2009年には合計30カ国218名の専門家が、研究や博士論文執筆のために来日。来日したフェローは通算4,500人を超えた。

**文化×
平和構築**

文化交流がテーマの国際シンポジウム

文化交流の意義を再検討するシンポジウムをゲーテ・インスティトゥート、毎日新聞社との共催で実施。紛争地や被災地における文化活動を取り上げ、国際文化交流事業が平和に対して果たす役割を再評価。平和のための文化の役割を広く社会に問いかけた。